

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



**2020.10.26-11.1**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

51:25 全地を破壊する、破壊の山よ。見よ。わたしはおまえを攻める。・・主の御告げ。・・わたしはおまえに手を伸べ、おまえを岩から突き落とし、おまえを焼け山とする。

51:26 だれもおまえから石を取って、隅の石とする者はなく、礎の石とする者もない。おまえは永遠に荒れ果てる。・・主の御告げ。・・

51:27 この地に旗を掲げ、国々の中に角笛を鳴らせ。国々を整えてこれを攻めよ。アララテ、ミニ、アシュケナズの王国を召集してこれを攻めよ。ひとりの長を立ててこれを攻めよ。群がるばったのように、馬を上らせよ。

51:28 国々を整えてこれを攻めよ。メディア人の王たち、その総督やすべての長官たち、その支配する全土の民を整えて、これを攻めよ。

51:29 地は震え、もだえる。主はご計画をバビロンに成し遂げ、バビロンの国を住む者もない荒れ果てた地とされる。

51:30 バビロンの勇士たちは戦いをやめて、とりでの中にすわり込み、彼らの力も干からびて、女ようになる。その住まいは焼かれ、かんぬきは砕かれる。

51:31 飛脚はほかの飛脚に走り次ぎ、使者もほかの使者に取り次いで、バビロンの王に告げて言う。「都はくまなく取られ、

51:32 渡し場も取られ、葦の舟も火で焼かれ、戦士たちはおじ惑っている。」

51:33 イスラエルの神、万軍の主が、こう仰せられたからだ。「バビロンの娘は、踏まれるときの打ち場のようだ。もうしばらくで、刈り入れの時が来る。

51:34 『バビロンの王ネブカデレザルは、私を食い尽くし、私をかき乱して、からの器にした。葦のように私をのみこみ、私のおいしい物で腹を満たし、私を洗い流した。』

51:35 シオンに住む者は、『私と私の肉親になされた暴虐は、バビロンにふりかかれ。』と言え。エルサレムは、『私の血はカルデアの住民に注がれよ。』と言え。」

51:36 それゆえ、主はこう仰せられる。「見よ。わたしはあなたの訴えを取り上げ、あなたのために報復する。わたしはその海を干上がらせ、その泉をからす。

51:37 バビロンは石くれの山となり、ジャツカルの住みかとなり、恐怖、あざけりとなる。

51:38 彼らは共に、若獅子のようにほえ、雄獅子のように叫ぶ。

51:39 彼らがいらだっているとき、わたしは彼らに宴会を開き、彼らを酔わせて踊らせ、永遠の眠りについて、目ざめないようにする。・・主の御告げ。・・

51:40 わたしは彼らを、子羊のように、また雄羊か雄やぎのように、ほふり場に下らせる。

26節までは、ベルシャ王クロスがバビロンを滅ぼす預言です。33節まではバビロンの狼狽が書かれており、34節からはイスラエルのためにバビロンに仇を打ってくださる神の預言です。

この世にあっての助けは、現実的には敵への報復が必要になる場合があります。主はそのようなときも、権威を表してくださる方です。しかし、人間の勝手な勝利のためではなく、また復讐心のためではなく、神様の義と栄光のためです。

イスラエルもまた神様の前に懲らしめを受けた

ことを忘れてはなりません。もしも罪ゆえに懲らしめられてとしても、その試練を十分に受け、悔い改めて主に立ち帰るなら、主は敵をも倒して助けてくださるということです。主の権威に従ってまじまじと。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 27日 火曜

### エレミヤ



51:41 ああ、バビロンは攻め取られ、全地の栄誉となっていた者は捕えられた。ああ、バビロンは国々の間で恐怖となった。

51:42 海がバビロンの上にのしかかり、その波のざわめきにそれはおおわれた。

51:43 その町々は荒れ果て、地は砂漠と荒れた地となり、だれも住まず、人の子が通りもしない地となる。

51:44 わたしはバビロンでベルを罰し、のみこんだ物を吐き出させる。国々はもう、そこに流れ込むことはない。ああ、バビロンの城壁は倒れてしまった。

51:45 わたしの民よ。その中から出よ。主の燃える怒りを免れて、おのおの自分のいのちを救え。

51:46 そうでないと、あなたがたの心は弱まり、この国に聞こえるうわさを恐れよう。うわさは今年も来、その後の年にも、うわさは来る。この国には暴虐があり、支配者はほかの支配者を攻める。

51:47 それゆえ、見よ、その日が来る。その日、わたしは、バビロンの刻んだ像を罰する。この国全土は恥を見、その刺し殺された者はみな、そこに倒れる。

51:48 天と地とその中のすべてのものは、バビロンのことで喜び歌う。北からこれに向かって、荒らす者たちが来るからだ。・・・主の御告げ。・・・

51:49 バビロンは、イスラエルの刺し殺された者たちのために、倒れなければならない。バビロンによって、全地の刺し殺された者たちが倒れたように。

51:50 剣からのがれた者よ。行け。立ち止ま

るな。遠くから主を思い出せ。エルサレムを心に思い浮かべよ。

51:51 『私たちは、そしりを聞いて、はずかしめを受けた。他国人が主の宮の聖所にはいったので、侮辱が私たちの顔をおおった。』』

バビロンはイスラエルを苦しめただけでなく、他の国々をも苦しめました。なので「天と地とその中のすべてのものは、バビロンの（倒された）ことで喜び歌う。」とあります。またバビロンは「ベル」という偶像を拝む、偶像礼拝の国民でもあったのです。

主のさばきはこれらすべての罪に対してのものです。主は正しいお方ですから、罪をいい加減にはなさいません。神の民だからと言って、大目に見るということはありませんし、その敵であるからと言って、特別に苦しめるということはないのです。

イスラエルは罪の報いを受けましたし、またバビロンも罪の報いを受けました。両者の違いは、神の赦しにより頼んだかということです。私たちも同じです。主に赦しを求め、主により頼みましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 28日 水曜

### エレミヤ

51:52 「それゆえ、見よ、その日が来る。主の御告げ。その日、わたしは、その刻んだ像を罰する。刺された者がその全土でうめく。

51:53 たといバビロンが天に上っても、たとい、そのとりでを高くして近寄りたくしても、わたしのもとから荒らす者たちが、ここに来る。主の御告げ。」

51:54 聞け。バビロンからの叫び、カルデア人の地からの大いなる破滅の響きを。

51:55 主がバビロンを荒らして、そこから大いなる声を絶やされるからだ。その波は大水のように鳴りとどろき、その声は鳴りどよめく。

51:56 荒らす者がバビロンを攻めに来て、その勇士たちは捕えられ、その弓も折られる。主は報復の神で、必ず報復されるからだ。

51:57 「わたしは、その首長たちや、知恵ある者、総督や長官、勇士たちを酔わせる。彼らは永遠の眠りについて、目ざめることはない。その名を万軍の主という王の御告げ。」

51:58 万軍の主はこう仰せられる。「バビロンの広い城壁は、全くくつがえされ、その高い門も火で焼かれる。国々の民はむなしく勞し、諸国の民は、ただ火に焼かれるために疲れ果てる。」

51:59 マフセヤの子ネリヤの子セラヤが、ユダの王ゼデキヤとともに、その治世の第四年に、バビロンへ行くとき、預言者エレミヤがセラヤに命じたことば。そのとき、セラヤは宿營の長であった。

51:60 エレミヤはバビロンに下るわざわいの



すべてを一つの巻き物にするした。すなわち、バビロンについてこのすべてのことばが書いてあった。

51:61 エレミヤはセラヤに言った。「あなたがバビロンにはいったときに、これらすべてのことばをよく注意して読み、

51:62 『主よ。あなたはこの所について、これを滅ぼし、人間から獣に至るまで住むものがないようにし、永遠に荒れ果てさせる、と語られました。』と言い、

51:63 この書物を読み終わったなら、それに石を結びつけて、ユーフラテス川の中に投げ入れ、

51:64 『このように、バビロンは沈み、浮かび上がれない。わたしがもたらすわざわいのためだ。彼らは疲れ果てる。』と言いなさい。」ここまでが、エレミヤのことばである。

バビロニヤは強大で恐ろしい国であったが、そのバビロニヤでも、時が来れば滅ぼされるようになります。しかし実際にその権力の下にある者はそれを信じるのが難しいでしょう。

私たちがまた同じで、自分の上に力をふるって自分をコントロールするような存在がいるときには、それが永遠に続くような気がします。しかし、信仰の忍耐はそれが希望の変わることを保証します。

エレミヤは「このように、バビロンは沈み、浮かび上がれない。わたしがもたらすわざわいのためだ。彼らは疲れ果てる。」と預言しましたが、まさにそのことが起こるのです。

その忍耐の秘訣は、神に時をゆだねることです。すぐにすぐに…とばかり思っていると、失望ばかりの毎日ですが、主に任せつつその中で恵みに気づいているなら、幸いの中で待つことができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 29日 木曜

### エレミヤ

52:1 ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナの出のエレミヤの娘であった。

52:2 彼は、すべてエホヤキムがしたように、主の目の前に悪を行なった。

52:3 エルサレムとユダにこのようなことが起こったのは、主の怒りによるもので、ついに主は彼らを御前から投げ捨てられたのである。そののち、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した。

52:4 ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカデザルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに来て、これに対して陣を敷き、周囲に壘を築いた。

52:5 こうして町はゼデキヤ王の第十一年まで包囲されていたが、

52:6 第四の月の九日、町の中では、ききんがひどくなり、民衆に食物がなくなった。

52:7 そのとき、町が破られ、戦士たちはみな逃げて、夜のうちに、王の園のほりにある二重の城壁の間の門の道から町を出た。カルデヤ人が町を包囲していたので、彼らはアラバへの道を行った。

52:8 カルデヤの軍勢が王のあとを追い、エリコの草原でゼデキヤに追いついたとき、王の軍隊はみな王から離れて散ってしまった。

52:9 そこでカルデヤ人は王を捕え、ハマテの地のリブラにいるバビロンの王のところへ彼を連れ上った。バビロンの王は彼に宣告を下した。

52:10 バビロンの王は、ゼデキヤの子らを彼の目の前で虐殺し、ユダのすべての首長たち



をリブラで虐殺した。

52:11 またゼデキヤの両眼をえぐり出し、彼を青銅の足かせにつないだ。バビロンの王は、彼をバビロンへ連れて行き、彼を死ぬ日まで獄屋に入れておいた。

ゼデキヤはユダヤ最後の王です。彼は神に従わなくても王としてやってゆけると思ったので、従わずに「主の目の前に悪を行った」のでしょう。しかしその結果は悲惨なものでした。またその悲惨さはバビロン王の残虐さも浮き彫りにします。まさに神を信じない者同士の有様です。

この出来事は神の預言が必ずなることを表しています。そしてその成就には理由があります。さらにはそれが明らかにされるということは、そこに神のメッセージがあるのです。

歴史を作るのは一人一人の生き方であり行動です。私たちもまたその歴史の中に生きていますが、それは神様の計画の中にあるということです。主の大きなご計画を知り、主に従い、個人としても主に従って、歴史の担い手になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



52:12 第五の月の十日・・・それは、バビロンの王ネブカデザル王の第十九年であった。・・・バビロンの王に仕えていた侍従長ネブザルアダンがエルサレムに来て、

52:13 主の宮と王宮とエルサレムのすべての家を焼き、そのおもだった建物をことごとく火で焼いた。

52:14 侍従長といっしょにいたカルデアの全軍勢は、エルサレムの回りの城壁を全部取りこわした。

52:15 侍従長ネブザルアダンは、民の貧民の一部と、町に残されていた残りの民と、バビロンの王に降伏した者たちと、残りの群衆を捕え移した。

52:16 しかし、侍従長ネブザルアダンは、国の貧民の一部を残し、ぶどう作りと農夫とした。

52:17 カルデア人は、主の宮の青銅の柱と、主の宮にある青銅の車輪つきの台と、海とを砕いて、その青銅をみなバビロンへ運んだ。

52:18 また、灰つぼ、十能、心切りばさみ、鉢、平皿、奉仕に用いるすべての青銅の器具を奪った。

52:19 また、侍従長は小鉢、火皿、鉢、灰つぼ、燭台、平皿、水差しなど、純金、純銀のものを奪った。

52:20 ソロモン王が主の宮のために作った二本の柱、一つの海、車輪つきの台の下にある十二の青銅の牛、これらすべての器具の青銅の重さは、量りきれなかった。

52:21 その柱は、一本の柱の高さが十八キュビトで、その回りを測るには十二キュビトのひもがおり、その厚さは指四本分で、中は空

洞になっていた。

52:22 その上に青銅の柱頭があり、一つの柱頭の高さは五キュビトであり、柱頭の回りに、網細工とざくろがあって、それもみな青銅で、他の柱もざくろもこれと同様であった。

52:23 回りには九十六のざくろがあり、回りの網細工の上には全部で百のざくろがあった。

エルサレムは陥落し、神殿の聖具も持ち去られました。神殿は神様がその民と出会ってくださる場所でありましたが、民の不信仰によって破壊されてしまったのです。神と民とのコミュニケーションがなくなってしまった、その象徴のような出来事です。

これで分かることは神様は神殿に限定されて存在なさるわけではないということで、神様はどこにでもおられる方であると分かります。この後、民がバビロニアに捕らえ移されても、主はそこそこでご自身を表してくださるのです。

信仰の場所や状況が保てなくこともあるかもしれませんが、主はそのような見えるものに限定されないことを覚えましょう。主はどこでも、どんな状況でもその力と愛を表してください。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 31日 土曜

### エレミヤ

52:24 侍従長はさらに、祭司のかしらセラヤと次席祭司ゼパニヤと三人の入口を守る者を捕え、

52:25 戦士の指揮官であったひとりの宦官と、町にいた王の七人の側近と、一般の人々を徴兵する將軍の書記と、町の中にいた一般の人々六十人を、町から捕え去った。

52:26 侍従長ネブザルアダンは彼らを捕え、リブラにいるバビロンの王のもとへ連れて行った。

52:27 バビロンの王は彼らを打ち、ハマテの地のリブラで殺した。こうして、ユダはその国から捕え移された。

52:28 ネブカデレザルが捕え移した民の数は次のとおり。第七年には、三千二十三人のユダヤ人。

52:29 ネブカデレザルの第十八年には、エルサレムから八百三十二人。

52:30 ネブカデレザルの第二十三年には、侍従長ネブザルアダンが、七百四十五人のユダヤ人を捕え移し、その合計は四千六百人であった。

52:31 ユダの王エホヤキンが捕え移されて三十七年目の第十二の月の二十五日に、バビロンの王エビル・メロダクは、彼が即位した年のうちに、ユダの王エホヤキンを釈放し、獄屋から出し、

52:32 彼に優しいことばをかけ、彼の位をバビロンで彼とともにいた王たちの位よりも高くした。

52:33 彼は囚人の服を着替え、その一生の間、いつも王の前で食事をした。

52:34 彼の生活費は、死ぬ日までその一生の



間、日々の分をいつもバビロンの王から支給されていた。

エホヤキンはゼデキヤの前の王です。彼はバビロニヤに捕らえられましたが、ゼデキヤ王ほど悲惨ではなく、後に釈放されたとあります。ゼデキヤ王はバビロニヤに逆らって戦いましたが、彼はそうしませんでした。

バビロニヤに捕らえられるのは神の懲らしめであり、それを甘んじて受ける必要があったのです。そこには現実的な強国バビロニヤという面がありましたが、一方主の御心もあったのです。

主の御心は現実の中に表されます。主が現実を導かれるからです。私たちは信仰のない者に左右されるのは面白くない思いになりますが、それもまた主の御手の中にあるのです。

主に従いきれないで抱え込んでしまう現実があります。それさえも用いて私たちを練り上げてくださる主を信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:1 パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神および主イエス・キリストにあるテサロニケ人の教会へ。恵みと平安があなたがたの上にありますように。

1:2 私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し、祈りのときにあなたがたを覚え、

1:3 絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。

1:4 神に愛されている兄弟たち。あなたがたが神に選ばれた者であることは私たちが知っています。

1:5 なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。また、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるまったかは、あなたがたが知っています。

1:6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。

1:7 こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の模範になったのです。

1:8 主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。

1:9 私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように

偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、

1:10 また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。

パウロはかつて、アテネからテモテを遣わして、このテサロニケ教会の人々を励ましました。彼らの信仰が、迫害などの困難にはまだ弱かったからです。しかし今は、「絶えず…あなたがたの信仰の働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。」「信者の模範になった」と言われるほどになっています。

信仰の成長は、全能の主によって実現するものなので、このように可能性に満ちたものです。伝道も養育も癒しも、主に希望をいただきながら進めていきましょう。

「福音があなたがたに伝えられたのは…力と聖霊と強い確信とによった」とあります。私たちは伝道するときに、理解してもらおう、良い印象を持ってもらおう、プレッシャーをかけないようにしよう、誤解のないようにしよう…などと配慮します。それ自体は良いのですが、人に配慮して人を見るあまり、主の力を見落とす場合があります。

救いをもたらすのは、人への配慮ではなく、主の力と聖霊、そして語る者の確信なのだということです。ですから祈ることによって、それらをしっかりと求め、また頼りつつ福音を伝えてゆきましょう。救いの決心を促してゆきましょう。

テサロニケ教会に集う人々の信仰は、すばらしい評判になって伝わっていたようです。「他の人々が言い広めている」とあります。自らの評判は、自分で宣伝するものではなく、人々が広めるほうが証しになります。その背後に主が働いておられるからでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

